

建設発生土リサイクル等技術情報

2022/06/14時点

技術等名称		技術概要	NETIS等番号	URL:
土質改良	改良材	高含水泥土改良剤 MTシリーズ	建設現場から発生した高含水泥土を15分程度の改良で瞬時に固化し、ダンプトラックによる即時搬出を可能とした泥土改良剤である。	TH-160012-VR https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-160012%20
		吸水性泥土改質材「ワトル」	本材料は、吸水性の高いペーパースラッジ焼却灰(PS灰)を主原料とした泥土改質材である。本材料を泥土に添加混合することで、本材料が泥土中の水分を吸収し泥土の強度を高める。本材料はPS灰に補助薬剤と水を添加混合後乾燥処理したものである。	TH-160010-VR https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-160010%20
		石膏系中性固化材(エコハードAⅡ)	泥土のpHに影響を与えることなく中性のまま固化するため、アルカリによる動植物への影響がなく周辺環境への配慮が図れる。短時間(30~120分程度)で固化するため、速やかに再利用でき工程短縮が可能となる。生石灰と比べて発熱量が小さく、取扱・貯蔵時の安全性が向上する。	CB-160012-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CB-160012%20
		Fe石灰ライト	Fe石灰ライトは、生石灰と酸化鉄をベースにした非セメント系の土質改良材で、高含水比の泥土や建設発生土などの軟弱土の改良に優れた効果を発揮するだけでなく、酸化鉄の化学変化によって改良土の再生効果で盛土材としての再利用が可能である。	QS-130018-VR https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-130018%20
		中性改質剤 ハードレックスシリーズ	本技術は、軟弱な建設発生土・泥土・汚泥を再利用するための改良土のpHを中性域(pH5.0~pH9.0)に保つ中性改質剤で、従来は生石灰による改良と覆土で対応していた。本技術の活用により覆土が必要なくなり、経済性の向上と工程の短縮が図れる。	KT-210043-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210043%20
		パーフェクトフェニックスYT工法	本技術は、重金属類を含有した掘削ズリを安全な盛土材に改良する化学不溶化改質工法で、従来は、汚染土壌処理施設への運搬処分に対応していた。本技術の活用により、重金属類が混じった掘削ズリを不溶化し、盛土材の再資源として活用できるため、経済性の向上が図れる。	KT-210042-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210042%20
		オイルシャット	本技術は油汚染土壌に添加・混合攪拌することによって土壌中の油膜と油臭除去を除去し、浄化できる材料技術であり、従来は汚染土壌処理施設への運搬処分であった。本技術の活用により、油汚染土壌の搬出費用は減少するため経済性の向上が期待できる。	KK-210018-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-210018%20
		JRC再生土	本技術は、炭酸ガス接触法により中性化された改良土で、従来は生石灰安定処理した改良土を現場で薬剤添加混合により中性化していた。本技術の採用により現場での作業が不要となり、工期が短縮され改良土の品質と経済性の向上が図れます。	KT-210011-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210011%20
		重金属不溶化材「メタルキャッチャーZ」	本技術は、アロフェン・イモゴライトを主成分とする重金属不溶化材で、従来は、購入土等への置き換えに対応していた。本技術の活用により、環境負担が少ない天然鉱物での重金属不溶化、盛土材等の再利用が可能となるため、経済性の向上および工程の短縮が図れる。	KT-200135-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200135%20
		中和不溶化改質剤 メタルシャットシリーズ	本技術は、重金属の溶出を化学結合で不溶化すると同時に、土壌を中性に保ちながら固化もする中和型・中性型の土壌改質剤で、従来は汚染土壌処理施設や最終処分場への廃棄で対応していた。本技術の活用により重金属汚染土壌を土木資材で適正利用しコストダウンが図れる。	KT-200060-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200060%20
		重金属不溶化材「ポーラミックス」	産業廃棄物として処理が必要な、加工砂・碎石の製造過程で発生する汚泥(脱水ケーキ)を主原料とした、重金属を含有する土壌から溶出する重金属類を吸着、不溶化する材料です。	CG-200006-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-200006%20
		LDH系重金属類吸着剤「メタルグリッドA」	本技術は、7元素の重金属類を吸着するLDH(層状複水酸化物)系重金属類吸着剤で、従来は汚染土壌の置換えと廃棄処分に対応していた。本技術の活用により、吸着層によって重金属類の溶出を防止でき、汚染土壌の置換えが不要となるため、施工性および経済性の向上が図れる。	KT-190100-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190100%20
		サラサクリン	本技術は、粘性の高い土壌を短時間でサラサラの砂状に改質する中性の土質改良材で、従来は生石灰による残土処理で対応していた。本技術の活用により、短時間でpHを変えることなく土質改良でき、施工性・品質の向上と工程の短縮が期待できる。	KT-180019-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-180019%20
		非セメント系中性固化材 セーフティーソイル	セーフティーソイルは石膏を原料に製品化された非セメント系中性固化材で、従来は生石灰を使用していた。本技術の活用により、経済性・施工性の向上とともに、地球環境への影響抑制が期待できる。。	KK-170046-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-170046%20
		粒度調整土盛土材 おろちの鋼土	おろちの鋼土は、加工砂・碎石の製造過程において発生する産業廃棄物として処理が必要な汚泥(脱水ケーキ)と、独自に粒度調整された真砂土を設計条件を元に配合し製造する事から、安定した品質と高い遮水性能を持った築堤盛土や路床盛土に適したリサイクル製品です。	CG-170011-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-170011%20
		グランドエコロック-Z工法	土系舗装の表層に、改良材として天然ゼオライトを特殊な粒度分布で調合したグランドエコロック-Zを真砂土に混合し、保水性能、水捌け効果、防塵効果、凍結抑制効果が期待出来る工法である。	QS-170021-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-170021%20
		六価クロム還元浄化剤「改良6出なし」	本技術は、セメント系固化材による地盤改良工事で六価クロムの溶出が環境基準を超える恐れが判明した場合に添加する六価クロム還元浄化剤で、従来は、掘削置換工法で対応していた。本技術の活用により、経済性向上、工期短縮、施工性向上、周辺環境への影響抑制が図れる。	KTK-160025-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KTK-160025
吸水性が優れた土壌固化材キックコート	本技術はフライアッシュを主成分とする土壌固化(団粒化)材で、従来はセメント系固化材で対応していた。本技術の活用により建設発生土の固化性能を有し、環境負荷への軽減、即効性で工程の短縮、施工性・経済性の向上、安全・無害で植生できる改良処理土の実現が図れる。	KT-160129-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160129%20		
高機能リサイクル固化材 GAシリーズ	本材料は、建設廃棄物である石膏ボードやその他の産業廃棄物再生物を主原料とした、低価格で資源循環型の固化材シリーズである。リサイクル材を主体とし、固化材に含まれる六価クロムの溶出抑制機能や粉じん飛散防止などの機能性を持つ固化材である。	QS-160022-A https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-160022%20		

建設発生土リサイクル等技術情報

2022/06/14時点

	技術等名称	技術概要	NETIS等番号	URL:
	重金属処理剤「メタルクリア」	本技術は重金属類を含む土壤に天然鉱物ドロマイトを主成分とした処理剤を用いることで、土壤から溶出する重金属類の拡散を抑制する技術。従来の掘削除去工法に比べ原位置での処理が可能であり、施工工程も短縮できるため、本技術の活用により経済性が向上する。	KT-160056-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160056%20
	海水系酸化マグネシウム重金属不溶化剤 スーパーMAG	重金属で汚染された土壤等は従来は掘削除去され処分場に持込まれていたが、本技術は海水系酸化マグネシウムを用いて重金属で汚染した土壤等の不溶化を行う。本技術を活用することによって、処分場の持込み費用が削減でき、盛土等へのリサイクルが可能となる。	CG-160004-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-160004%20
	石膏系土壌改質材 タイガージハード	本技術は石膏により泥土を中性改質する材料である。従来技術はセメント系改質材に対応していたが、本技術の活用により改質土の品質が向上し、環境への負荷が低減され、盛土、海洋・河川への埋め立て、植栽土壌への利用性が向上する。	KT-160017-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160017%20
	カルシア改質土	カルシア改質土は、粘土・シルト分の多い軟弱な浚渫土にカルシア改質材(原材料:転炉系製鋼スラグ)を混合し、浚渫土の物理的・化学的性状を改質した材料で、強度増進・濁り抑制・海域底質浄化等の効果を有し、浅場干潟造成・浚渫地埋戻し・埋立て等に活用できる。	CBK-150001-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CBK-150001
	重金属不溶化材「デナイトシリーズ」	本技術は汚染土壤から有害物質の溶出を抑制する固化・不溶化材料で、従来はセメント系固化材に対応していた。本技術の活用により適用元素の増加と高い不溶化効果が得られるため、品質と施工性の向上が図れます。	KT-140040-VR	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-140040%20
	環境負荷低減型固化材 HSS工法「ドクトール」	本技術は、重金属類汚染土等の不良土の固化・不溶化技術である。従来は、廃棄処分してしていた。本技術により、不良土の現場利用促進が可能である。また、反応後のpHが中性域であることから、付近が河川・湖沼・田畑でも安全に施工できる固化材としても利用可能である。	CB-120028-VR	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CB-120028%20
	透水性保水型路盤材 (ATTAC路盤材)	舗装工の路盤工に関する技術である。ATTAC路盤材は、砕石材に特殊な改良材(団粒化剤、セメント系固化材)を混合し、透水性・保水性を向上させた材料である。雨水の透水・保水効果が向上することで、雨水流出抑制効果及び、暑熱緩和対策にも期待できる。	QS-200039-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-200039%20
	土壌改良材DWファイバー	本技術はフルボ酸と特殊解繊加工した木質繊維を土壤に混合することで土壤の物理性・化学性を改善する材料で、従来は無機質資材(パーライト等)による土壤の物理性改善に対応していた。本技術により時間経過による土壤の機能低下の問題が改善され品質の向上が図られる。	KT-170110-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170110%20
	ゆいサンド工法	石炭火力発電所から排出されるクリンカアッシュ(石炭灰)を芝生の植生基盤材に再利用した製品です。保水性・透水性・踏圧に優れた根の発育を促進し、芝生の健全生育が期待できます。	OK-170004-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=OK-170004%20
	多機能性人工再生盛土材 (お陰盛土)	本技術は、土工(盛土工)に関する技術である。本技術により、地震災害時に発生する土中の液状化への抑制効果のある人工再生盛土材を製造可能である。その他の機能として、高吸水性・濁水浄化性を併せ持っている。従来の購入土(真砂土)と同様の施工が可能である。	QS-210028-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-210028%20
	土壌・地下水の油汚染自動浄化工法(3N注入工法)	本技術は、油分を含む土壌・地下水を原位置油分解微生物で浄化する技術で、従来は、土工(掘削除去+汚泥廃棄処理+清浄土埋め戻し)に対応していた。本技術の活用により油汚染土壌は、原位置浄化により環境負荷を低減でき地球環境への影響抑制及び経済性の向上が図れます。	KT-180001-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-180001%20
	スーパーシルトロック工法	現場から発生した高含水泥土を天然無機系団粒安定剤により、攪拌することでイオン結合し団粒化となり、ダンプトラックによる運搬を可能にする泥土処理工法	QS-180043-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-180043%20
	GS石灰処理土 GSソリッド	GS石灰処理土 GSソリッドは、建設発生土を自社プラントにて40-0mmに篩ったものに、独自の配合で製造した粒調砕石40-0mm以下、「GS粒調砕石」と呼ぶ)を約50:50で投入し、安定材として生石灰を添加して自社プラントで混合・製造した粒状地盤材料である。	QS-160044-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-160044%20
	重金属対策資材	本技術はトンネル掘削ずり、建設発生土、浚渫土などの重金属含有土の対策工である吸着層工法、不溶化工法に用いる資材です。セレン、ヒ素などの重金属類を還元・吸着する資材で、特にセレンに優れた吸着性能を有します。	HK-160006-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-160006%20
	原位置微生物活性化型のバイオレメディエーション (EDC工法)	本技術は、微生物栄養剤(EDC)を用いて汚染土壤を原位置浄化する工法であり、従来は掘削及び置換による。本技術の嫌気性菌を活用した浸透液の注入処理により、飛散粉塵の発生の機会の減少、嫌気性状況下の地下水を含めた浄化対策による周辺環境への影響の低減等が図れる。	KT-210060-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210060%20
	廃石膏粉を副材とした汚泥急速固化工法	シリカ水溶液と濃度10%の希硫酸を主材、廃石膏粉を副材とする汚泥急速固化材であり、汚泥を急速に固化、廃石膏粉の適正処理、汚泥の中和、その結果、農耕用埋立土として使用し、汚泥処理の工期短縮、工費削減、労働環境改善、自然環境汚染防止及びの改善を実現する。	KT-210031-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210031%20
機械システム	くし兵衛工法	本技術は、共回り防止翼とその上下にくし部を設けた攪拌翼を持つ独自の掘削攪拌装置によるソイルセメントコラム工法で、従来は、ソイルセメントコラムに対応していた。本技術の活用により、改良体の攪拌効率が高まり品質の向上、経済性の向上が図れます。	KT-210051-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210051%20
	STB-ICT粒度改良工法	本技術は、GNSS施工管理システム搭載型スタビライザによる粒度改良工法で、従来は、プラントによる土質改良+人による施工管理で対応していた。本技術の活用により、原位置にて建設発生土を活用した築堤材料を合理的に製造できるため、施工性および経済性の向上が図れる。	KT-210047-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210047%20
	自走型回転式破碎混合機 (TMSP1500)	本技術は、建設発生土をリサイクルして盛土材を製造する自走型の改良工法で、従来は安定処理工(自走式土質改良工)で対応していた。本技術の活用により、最大粒径200mmまでの軟岩の破碎・粒度調整と固結粘性土の解砕ができるため、品質の向上が図れる。	KT-200094-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200094%20

建設発生土リサイクル等技術情報

2022/06/14時点

	技術等名称	技術概要	NETIS等番号	URL:
脱 水 シ ス テ ム	無粉塵投入自走式サイロ「ダストNON工法」	申請技術は自走式土質改良工において、固化材の貯蔵・供給に自走式サイロを使用する工法であり、従来は自走式土質改良工(フレコンバック固化材+不整地運搬車による運搬)としていた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上、周辺環境への影響抑制が期待できる。	KK-180036-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180036%20
	浅層改良工法(バケット式スタビ混合方式)	本技術はバックホウ装着型バケット式スタビ混合機により1m/層の安定処理や土質改良を、オペレータが混合状態を視認しながら前方施工工法で行うものである。機械調達も容易でコスト縮減・工期短縮が可能な経済性に優れた工法である。	TH-120013-VR	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-120013%20
	建設発生土等の固化材によるリサイクル改良土化	本技術は盛土材料としての品質を満足しない建設発生土を固化材で改良して再利用する技術であり、従来では埋立処分及び盛土材購入で対応していた。本技術の活用により、品質に劣る建設発生土を盛土材として有効利用できるため環境負荷の低減やトータルコスト縮減が期待できる。	SK-220002-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=SK-220002%20
	浄太郎Ⅷ	本装置はコンクリートカッターにて、アスファルト、コンクリート舗装路面等の切断作業時に発生する汚泥水を攪拌機内で特殊凝集剤により凝集反応させ、脱水機能付きスクリーンにより固液分離し、固形分は汚泥タンクに、上水は再度切断冷却水として、リサイクルする技術。	CG-150010-VE	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-150010%20
	環境配慮型水処理システム	構造が簡易でありながら、天然鉱物を主原料とする無機系凝集剤を使用することにより、環境に配慮した水処理システムです。従来は無機凝集剤と合成高分子凝集剤による濁水処理であり、本技術により、作業性や品質の向上、周辺環境の影響緩和がなされます。	HK-190002-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-190002%20
	超高速凝集沈殿装置 AKTI SYSTEM (アクチシステム)	本技術は濁水処理を超高速で行う凝集沈殿装置で、従来は可搬式角型シクナーを使用して凝集沈殿処理を行っていた。本技術の活用によりフロックの高密度化による超高速分離が可能となり、装置の小型化、経済性の向上、設置工事の工期短縮、処理水品質の向上が図られる。	KT-160149-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160149%20
	濁水処理システム[自動・固液分離]	本技術は工事で発生する工事泥水を固体(脱水汚泥)と液体(放流水)に分離する技術であり、従来は凝集沈殿装置と脱水機の2系統で対応していた。本技術の活用により固液分離を1系統で自動的に行えるため省人化、環境負荷抑制、リサイクル性向上が期待できる。	KK-160038-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-160038%20
	環境調和型高性能ハイブリッド凝集材	本製品は、天然鉱物を原料とした無機凝集材である。従来工法(PAC+高分子)では、pHにより反応が変化する為、前処理(pH調整)が必要であったが、本製品ではpHに左右されず1材での処理が可能となった。本製品の活用により、作業負担の軽減、コスト縮減が図られる。	HK-160003-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-160003%20
	エコマックス(凝集剤)	本技術は、天然鉱石を主成分とした1剤1工程タイプの無機系濁水処理剤で、従来は有害物を含む3剤3工程タイプの有機系濁水処理剤で対応していた。本技術の活用により、処理水は有害物を含まず安全性が向上し、1工程で処理できるため、工期短縮、経済性の向上が図られる。	KT-150109-VR	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-150109%20
	発 生 抑 制	重金属不溶化材「グリーンライムMPシリーズ」	本技術は、残土処理工に寄与する技術である。従来技術では難しかった、セレンをはじめとした複合汚染土の重金属不溶化が可能。本技術の活用により、汚染土を盛土等へリサイクルすることが可能となり、処分場への持込み費用や購入土の費用を削減できる。	QS-210042-A
N-Jet工法		本技術は、軟弱地盤や液状化地盤等を強化する高圧噴射攪拌工法で、従来は高圧噴射攪拌工法(二重管工法)で対応していた。本技術の活用により、改良体造成時間の短縮、施工本数や建設汚泥発生量の削減が可能のため、工程の短縮と経済性の向上が図れる。	KT-200039-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200039%20
パーマロックASFシリーズ		本技術は薬液注入工法に用いる液状化対策用溶液型恒久グラウトで、従来はセメント系固化材(JG-1号)で対応していた。本技術は土粒子間浸透による改良であり、地盤構造を破壊せずに大量の建設汚泥も発生しない、小型設備での対策が可能であり、経済性の向上が図れます。	KT-190051-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190051%20
ハイビーネオ		本技術は、補強土壁工法である。従来は帯鋼補強土壁などで対応していたが、本技術の活用で壁面材の薄型軽量化による施工性の向上及び短繊維混合改良土とジオグリッドによる補強土壁の品質向上が期待できる。また現場発生土の利用で環境への影響低減も可能となる。	HK-180020-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-180020%20
泥水二次処理剤自動添加システム		本技術は、泥水式シールド工法の二次処理剤を自動添加するシステムで、従来は、手動添加する方法で対応していた。本技術の活用により、二次処理剤使用量と脱水ケーキ量(建設汚泥)を削減でき、地球環境・周辺環境への影響抑制と経済性向上が図れる。	KT-180039-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-180039%20
エコジオゼロ(ECO GEO ZERO)工法		専用ケーシングを備えた小型の地盤改良機により、軟弱地盤に碎石による円柱状の補強体を造成し、支持力を向上させる地盤改良技術です。狭小地での施工が可能で、ケーシングは地盤に圧入していくので残土がほとんど発生しません。	CB-170031-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CB-170031%20
L-スピンコラム工法		本技術は、高圧噴射を併用した機械攪拌工法で、従来は高圧噴射攪拌工法(多孔管工法)で対応していた。本技術の活用により、排泥(産業廃棄物)を少なくすることが可能になり経済性の向上や環境への影響抑制が図れるとともに、クレーンを必要としないため安全性も向上する。	KT-170026-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170026%20
NJP(エヌ・ジェイ・ピー)工法シリーズ		本技術は、液状化対策用に圧縮空気を連行させた多重管高圧噴射攪拌工法で、従来は高圧噴射攪拌工(二重管工法)にて対応していた。本技術の活用により、改良径が1.8m~4.5mに拡大され、施工期間の短縮、コスト低減、発生土量(産業廃棄物)の低減が図れる。	KT-160120-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160120%20
丸太打設液状化対策&カーボンストック(LP-LiC)工法		本技術は、丸太打設による液状化対策工法で、従来はサンドコンパクションパイル工法で対応していた。本技術は細径丸太の静的圧入となるので、温室効果ガスの削減が図れ、残土発生がない施工が可能になります。	KT-190054-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190054%20
リサイクルアースグリーン工法(REG工法)		本技術は現場発生土を生育基盤の主材料とする植生基材吹付工で、従来は工場生産された生育基盤材で対応していた。本技術の活用により資源循環型緑化工法として現場発生土のリサイクルが図られ、現場で確実に篩分けるので残土が少なくなる。	QS-130003-VR	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-130003%20

建設発生土リサイクル等技術情報

2022/06/14時点

技術等名称	技術概要	NETIS等番号	URL:
「すきとり表土」分別工法	本技術は、「すきとり表土」を草根茎と土砂に分別する工法であり、従来は「表土はぎ土の全量処分」にて対応していた。本技術の活用により、分別後の土砂の再利用と処分費のコスト縮減が期待できる。	KK-120039-VE	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-120039%20
乾式磁力選別工法	本技術は、重金属汚染土壌中の重金属汚染物質と浄化土を分離する技術である。従来は、全量場外の管理型最終処分場等へ運搬処理されていた。本技術を適用することにより、場外へ運搬処理される土量が減少し、経済性の向上および周辺環境への影響抑制が図れます。	KT-160113-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160113%20
e-pile next工法	本技術は、先端に拡翼を取付けた鋼管に同径及びテーパ管を用いた拡頭鋼管を接続しながら回転貫入する工法で、従来は、プレボーリング杭工法で対応していた。本技術の活用により無排土施工となり残土処理が不要な経済性、コンパクト施工による作業環境の向上が図れます。	KT-160071-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160071%20
汚染土壌分級システム	本技術は汚染土壌分級システムで、従来技術では汚染された75 μ m以上の砂分を洗浄後に再利用し、75 μ m以下の粘土やシルト分は全量廃棄していた。本技術の活用により20 μ m程度で分級する事で、再利用可能な粘土やシルト分(20~75 μ m)が増加し廃棄物量の削減も図れます。	KT-220013-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220013%20
土木泥水再利用システム	本技術は、土木泥水再利用システムで、従来技術では発生した泥水は産業廃棄物処理されていた。本技術の活用により、工事による汚泥等の廃棄物の総量の削減、汚泥の沈殿処理の待機時間がないため、経済性・施工性の向上が図れます。	KT-200041-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200041%20
バッチャープラント側排水処理設備	本技術は工事現場における坑内等やバッチャープラントから出てくる排水を分けて処理するものであり、廃棄骨材の自動回収が可能な設備である。従来の合併処理に比べて中和剤の使用量の低減、骨材処理作業の削減が図れることから経済性、施工性の向上が期待できる。	SK-190006-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=SK-190006%20
シーエスパイル工法	本技術は地表から深さ5m未満の軟弱地盤において、専用ケーシングを備えた改良機を使用して無排土で地中に砕石を充填する技術で従来は置換工法で対応していた。本技術の活用により残土を発生させることなく軟弱地盤の改良が可能となるので、経済性の向上が図れる。	KT-160020-A	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160020%20
ブレード & フラット グラブ工法	本工法では底面が真平らなバケットを使用し、海底地盤を大きく掘り取らず、均しや押し潰しにより仕上げる。この結果、従来の円弧グラブによる掘削仕上げより余掘り量の大幅減少と、平坦な仕上げ面が得られる。従って土砂処分場延命化や出来形精度の向上などが期待される。	QSK-120003-VE	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QSK-120003